

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第7回 理事会 議事録

日時：令和4年8月8日（月）14:00-15:30

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、
高橋 寛、竹下 克志、筑田 博隆、田中 信弘、土井田 稔、
永島 英樹、西田 康太郎、根尾 昌志、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

会議は理事長・波呂浩孝が議長となり、web で行われた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

2. 学会事業継続に向けた外部団体との連携促進 WG：募金趣意書の件

当学会の運営を今後も円滑に進めるため、脊椎関連企業を含めた外部団体に対し、どのような連携ができるかヒアリングを行い、アンケート調査を実施した。高額な会費対応は難しいとの回答が多数あったため、まずは、学会への寄付が可能な企業へ幅広くトライアル的に依頼していくこととし、趣意書と寄付申込書の提案がなされた。

これに対し、以下のような議論、確認がなされた。

- ・当年度学会長も依頼をするため企業によっては2回の寄付を依頼されることになるが、学会長の依頼は学術集会に対してであり、学会本体からの寄付依頼は学会事業の運営(トラベリングやデータベース等)に対してであるため趣旨が異なる。
- ・組織 COI について対応が必要だが、以前の議論通り、日整会の組織 COI に則り対応していく。
- ・寄付の支援は企業だけではなく、個人からの贈与も想定される。よって、ホームページを利用して依頼するのはどうかという意見があった。
- ・目標金額についても議論され、5000 万は妥当であろうと結論された。
- ・寄付金は、例えば「1口：10万円」という形で募集するのが良いという意見が出され、金額については再度 WG で検討をすることとなった。

審議の結果、当学会運営を今後も円滑にするため、脊椎関連企業を含めた外部に対して寄付の依頼を実施することが承認された。

3. 脊髄モニタリング委員会：予算補助の件

脊髄モニタリングWGが今年度より委員会となったが、現在の経費は教育研修委員会の予算から計上しているため、来年度からは脊髄モニタリング委員会として予算立てをする必要がある。ただし、教育研修委員会の研修コースの中で実施する経費(研修コースⅣ、モニタリング認定医コース)は、一括して教育研修委員会の予算とすることが承認された。

4. 新技術評価検証委員会：新技術WG発足プロセスの件

これまで、新技術を取扱うWGの決定には明確な決まりがなかったため、新技術評価検証委員会を中心としたコアメンバーとWG発足のプロセスについて内規案を作成した。開発・運営費に費用がかかる場合、原則として企業にも経費負担を依頼するので、COI担当理事もしくは委員長も新技術WG発足までのコアメンバーに追加したい。上記報告を受け、新技術WG発足内規として承認された。

小田理事より、WG委員長にはCOIがない(少ない)方が望ましいが、委員はそこまで厳しくなくとも良いと考える。しかし、企業とのCOIがありすぎる方への委嘱は避けるべきなので、委員会として確認をしていくと発言があった。

5. JSR編集委員会：WSSSの論文の件

先日より継続審議中のWSSSに関する論文について、これまでの意見を基に修正した案が報告された。審議のうね結語の4つに重要度の優劣はないとわかるような文面に再度修正し、理事会メンバーリスト全員で最終確認することが承認された。

6. メンバーシップ・コンプライアンス委員会：7月分会員審査

7月の入退会について全員を承認した。

継続審議中の除名勧告者について、申出があった場合には自主退会を認め、JSSR名誉指導医の資格についてはJSSR会員資格喪失と同時に取り消すことを承認した。

7. 脊椎関連学会連携促進委員会

1) アドバイザー委嘱の件

2025年開催予定のSWJ(Spine Week Japan)に向けた準備を行っており、委員会に毎日学術フォーラムの鈴木めぐみ氏を非会員・アドバイザーとして委嘱することが承認された。

2) SWJ事務職員雇用の件

SWJ運営法人事務局設置に先立ち、司法書士との打ち合わせや定款・規程の整備等を行う必要があり、事務局職員は2023年1月から雇用を開始したい。また、当学会の会期は2月から始まるが、2023年1月のSWJ運営法人事務職員の給与等については当年度支出とすることが承認された。

3)委員会への委員追加の件

2025年のSWJ開催に向け、各学会の会長と連携が必要になるため、5名の会長を委員に追加することが承認された。該当の会長は毎年変更となるため、委員はその都度変わることになる。

審議・報告事項

1. 教育研修委員会報告

2022年4月23日(土)開催の第20回脊椎脊髄病研修コースの収支が報告された。Ⅱコースは廃止されたため、今回からⅠ・Ⅲ・Ⅳコースのみ開催し、全体で312名の参加者となった。Ⅰコースの会場は140名収容であったが現地参加者は約半分であり、Ⅲ・Ⅳコースはほぼ満員であった。決算としては学会からの補助金も併せ収支均衡であった。

また、来年の第21回(札幌)では会場に余裕がないためⅠコースの現地参加人数枠を80名に減らし、この2年間満員が続いているⅣコース(脊髄モニタリング認定医コース)を最大140名と増やす予定である。

2. 国際委員会報告

下記の報告がなされた。

1)SpineWeek2023のJSSRシンポジウムが2023年5月3日で確定した。2022年10月15日まで一般演題募集しているので、ぜひ応募してほしい。

2)ATFの再開について台湾、韓国から相互派遣に関して前向きに検討する趣旨の回答があった。ただし、現地の新型コロナウイルス感染症の現状を調査し、先方とATFの活動状況について協議を継続する。

3)2023年第52回JSSR学術集会での委員会推薦演者リストを種市会長へ連絡した。English Presentation Awardに関してAPSSに周知をお願いした。

4)バリで開催されたSpine20に玉井委員と伊東理事が出席した。

3. データベース委員会報告

JSSRデータベースは7月中旬でデータクレンジング作業を開始し、今後入力施設へのフィードバックを順次行っていく予定。データ固定が完了次第、解析して結果をだす。

JSSR-DB2022年度登録状況としては、7月末時点で約3万件、1ヶ月で約1万件ペースであるが前年比約85%と減少している。再度、各施設や知り合いの医師に登録の協力が依頼された。

4. JSR編集委員会報告

事務局より報告されたJSR13-6追跡調査の結果が共有され、今後会員の興味のある内容を掲載していきたい。

また、学会本体HPとJSRのバナー広告企業を増やしていくため下記の様な意見が出された。

・企業はクリック数を確認している。学会として広告を継続してもらえるための対応策が重要である。

- ・広報委員会においてもホームページのバナー広告については積極的に依頼をしており、バナーの掲載場所を目立つところに変えるなど、クリック数増加策を検討している。
- ・企業への寄付申込の種類と受付窓口が複数あるため、企業側は不透明に感じる懸念がある。理事・監事からも依頼企業のリストを出してもらい、JSSRにおけるバナー広告の窓口を一本化して広報委員会で対応する。

5. 指導医制度委員会報告

現在公開している2022年度指導医継続申請について、新たに追加されたJSSRデータベースと指導医申請の関連に申請者から解釈の問い合わせがあったため、要項に記載している表現を修正した。

6. 広報委員会報告

1) ホームページの更新について

前回理事会以降に広報委員会で行ったホームページの更新内容を報告した。なお、松山前理事長の挨拶動画は学会アーカイブスへの保存用にデータを永島理事に渡すこととなった。

2) 関連学会の紹介を「関連学会告知」に掲載した。

3) 日整会の患者向けパンフレットについて、日整会広報・渉外委員会とJSSR広報委員会の確認が完了したため、日整会側でパンフレット修正作業に入る。日整会の広報・渉外委員でもある小田理事より、今回のパンフレットにはJSSRも連名表記を依頼すると報告があった。

7. 英文誌編集委員会報告

来年SSRRにインパクトファクターが付与される見込みである。会員へ一斉メールを配信し周知する。2022年にSSRRがどれだけ引用されたかが重要となるため、現在執筆中の論文があれば、SSRRから多く引用してもらうことを依頼したい。

8. その他委員会報告

・倫理委員会

「頰椎人工椎間板置換手術の安全性と有効性に関する研究」の承認をした。今後の学会主導研究でも、学会で収集したデータベースは「各大学で共有している」のではなく、「学会内で共有している」ということを認識してほしい。

・COI委員会

COI自己申告書は7月末を提出期限としているが、数名未提出者がいるため、すべての書類がそろい次第、委員会で提出書類のチェックをしていく。

その他

次回開催日：9月12日（月）14:00-16:00

以上

令和4年8月8日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三